

うえだ 環境市民会議 News

第36号
ニュース

うえだ環境市民会議の活動には、誰でも、どのプロジェクトチームにも参加できます。参加ご希望の方は、生活環境課までご連絡ください。豊かな環境を未来に残すために、一緒に活動しましょう。

この情報誌は自治センター、公民館、図書館、情報ライブラリー、市生活環境課の窓口で配布しております。

発行：うえだ環境市民会議

〒386-8601 上田市大手一丁目11-16

上田市生活環境課内

電話：0268-23-5120

FAX：0268-22-4127

E-mail seikan@city.ueda.nagano.jp

上田駅前清掃 & 打ち水大作戦のお知らせ

緑が少ないと言われているまち中で、うるおいのある街路景観づくりを目指して、うえだ環境市民会議では上田市の玄関口、上田駅周辺の清掃作業を実施しています。清掃終了後、地球温暖化防止の活動として、駅前で打ち水を行います。

身近にできることから始め、地域の環境をよくしていきましょう。下記のとおり実施しますので、みなさまお誘い合わせの上ご参加ください。

日時：平成23年 **8月6日** (土)

午前9時から駅前清掃

午前10時から打ち水大作戦

場所：上田駅周辺（集合場所 上田駅前交番側）

参加：どなたでもご参加いただけます。

持ち物：環境のため、ご自身で水筒等をお持ちください。

駐車場：なるべく公共交通機関をご利用いただくか、乗り合わせによりお越しくください。駐車場は上田駅前お城口駐車場をご利用ください。

◆ お問い合わせ ◆

うえだ環境市民会議事務局 / 上田市役所生活環境課 電話 23-5120

福島第一原子力発電所の事故に思う

うえだ環境市民会議議長 村山顕

福島第一原発の事故は、できたらあってほしくない、最悪の方向に進行しているのは、心痛むことである。できれば一刻も早い、収束を願うばかりである。

ところで、この原発事故をきっかけに、今まで自分が見過ぎていた事柄がたくさんあることに気がついた。その一つとして、鎌仲ひとみ監督の映画を見て改めて思ったのが、放射能による被曝の被害は、世界の人々に広がっているということだ。もちろん、世界初の原爆被害の広島と長崎で被曝した人々を始め、第5福竜丸の船員、ビキニ環礁の住民、チェルノブイリ原発の事故により放射能を浴びているロシアやヨーロッパの人々、さらには、原発で働いている人や周辺の住民、劣化ウラン弾の被害に遭っているイラクの人々、またまた、原爆工場で働いている人々や工場周辺の人々等々。人間は放射性物質を自分の手中に収められないことを自覚し、即刻原子力という魔の誘惑から、手を引くべきでしょう。

命との共存をモノサシに！

うえだ環境市民会議副議長 安井啓子

3.11から既に3ヶ月余、いまだに毎日放射能を出し続けている福島第一原発は、原子力の「安全」がいかに不確かで制御が困難なものかをわたしたちに教えてくれました。しかも空、海、大地・・・とあらゆる所に放射能を撒き散らし、人間だけでなく全ての命を被曝の危機にさらすという大

きな犠牲を伴って。放射能は目に見えず匂いも無くその存在は測定器で測るしかありません。しかし、その影響は想像を絶する長期にわたり、知らず知らずのうちに私たちの暮らしに侵入し、体や心を蝕んでいきます。

これまで原子力発電は『安全でクリーンで安価なエネルギー』と国も電力会社も大々的に宣伝し推進してきましたが実際はそうではありませんでした。今は、一刻も早く放射能の拡散と汚染被害の拡大をくい止めることを願うばかりです。と同時に私たちはこの現実としっかり向き合い、これからどんなエネルギーをどのように使い、どんな暮らし方をしたいのかを一人ひとりが考え、意思表示をし、小さなことでも行動に移すことがとても大事だと思います。

世界では、エネルギーの地産地消が始まっています。太陽、風、波、地熱、水など自然の力だけでなく生ゴミや間伐材、建築廃材などもエネルギー資源として有効活用されています。日本でも3.11を契機に自然エネルギーへシフトする動きが加速しています。

そこで、私たち上田にはどんなエネルギー資源があるのか調べ、どんな暮らし方が持続可能で未来に希望をつなぐことができるかなどを考えていきたいと思っています。その時大事にしたいモノサシは、経済的効率性ではなく命との共存です。うえだ環境市民会議は、市民主体の学びと実践の場としてみなさんが参加されることを願っています。みんなで繋がり合って新しい道を拓いていきましょう。



▲「メガソーラーいいだ」の見学風景

「メガソーラーいいだ」を訪ねて

上田市消費者の会 飯島公子

上田市で今年最高気温 29.6 度を記録した 5 月 19 日、長野県環境保全協会上小支部の環境施設見学会に参加させて頂きました。メガソーラーいいだの見学のほか、環境に対する思いが深い企業 2 社にもお世話になってきました。

さて、メガとは・・・100 万倍の、巨大なということですが、敷地面積約 18,000 m² にソーラーパネル 4,704 枚を設置し、年間 100 万 kWh の発電量を想定して、飯田市と中部電力が管理運営しているものでした。施設にたどり着いた午前 10 時 40 分の発電電力 873kW、本日の発電電力量

2,700kWh と表示がありました。一般家庭の 1 日使用料を 10kWh として、270 軒分の電力をまかなう事ができます。

自然エネルギーを効率良く利用するためには、多くの条件が整わなければなりません。3 月に起きた東日本大震災と津波による原子力発電所の大事故を身近に見せつけられた今こそ、私たちが安心・安全に生活するための手段として真剣に考えていきたいという思いで帰ってきました。

メガソーラーを見学して

環境保全協会上小支部 宮原潔

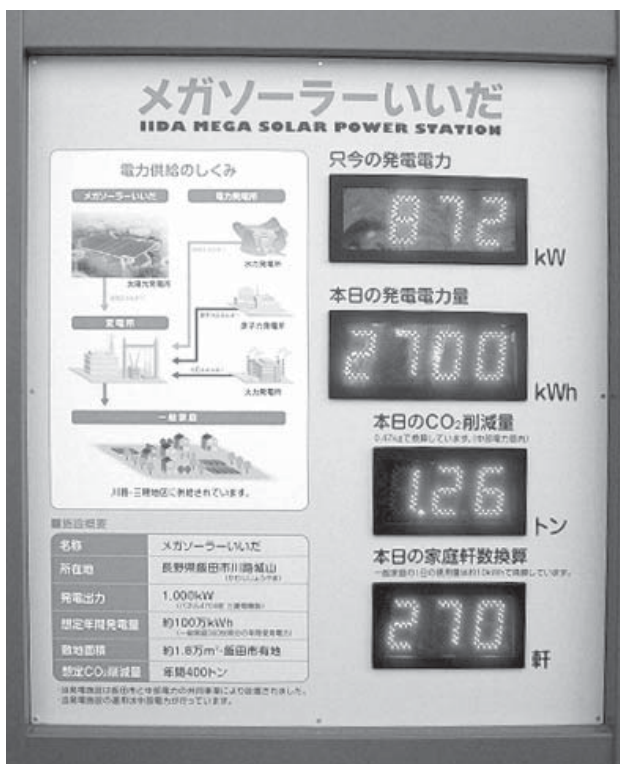
環境保全協会上小支部主催による、「メガソーラーいいだ」の施設見学に参加しました。

説明員がいろいろな説明をしてくれ

ると期待していきましたが、山の頂にただパネルが並んでいるだけでした。バスの運転手さんも道に迷い、2回も行き過ぎ、予定時刻より1時間遅れでようやくたどり着きました。次の見学場所の予定時刻もあり、15分の見学でしたが、丁度良い時間でした。

なぜ「メガソーラー」なのかというと、電力の単位 [W] で、ゼロが3つ付くとキロワット [KW] であり、ゼロが6つ付くとメガワット [MW] となります。そして、この発電所の発電出力は 1,000 (KW) = 1,000,000 (W) です。つまり、1メガワットの発電が出来る太陽光発電所であるので、メガソーラーといわれています。1枚のパネルは 230 (W) の発電能力があり、設置枚数は 4,704 枚設置されています。パネルメーカーは飯田市にパネル製造工場を持つ三菱電機製で、地産地消を実践して

▼ 発電状況



おり、飯田市の環境への力の入れ方も勉強になりました。

年間の想定発電量は約 100 万 (KWh) で、一般家庭 300 世帯分の電気をまかなえます。発電した電気は飯田市内の川路、三穂地区に電力供給をしています。また想定 CO² 削減量は、年間 400 トンになります。

この日 (5 月 19 日) は、雲ひとつない快晴に恵まれた、発電日和の日でした。午前10:30の時点で、870 (KW)、2,700 (KWh)、270 (軒) 分の発電をしていました。パネルに対する照射角度が、90 度になると思われる正午前後では、たぶん 1,000 (KW) の発電をしたと思われます。その数字を見る事ができたら最高でした。

自然エネルギーの導入推進

うえだ環境市民会議 竹内秀夫

福島第一原発の重大事故を目の当たりにして、ソフトバンクの孫正義氏がメガソーラーの設置を提唱し、それに阿部守一長野県知事も手を挙げました。これは小規模分散型の発電を目指したもので、脱原発・自然エネルギーへの転換による希望の持てる社会の実現につながるものです。日照条件で有利な 上小地域でメガソーラーの適地が見つかることを願っていますが、これだけに終始するのではなく、風力や小規模水力、木質バイオマス等々、上小地域に適した様々な自然エネルギーの導入を積極的に推進して行くことが今求められているように思います。